

水道施設への被害が最小となるよう耐震化に取り組んでいます

平成18年度以降、水道管の更新・新設いづれにおいても耐震管を使用しています。主に使用しているのは、管と管をつなぐ部分に伸縮性と離脱防止機能があり、地震が起きても外れにくい構造となっている耐震管です。災害時の重要施設である大規模病院などにつながる水道管は、優先して耐震管に入れ替えています。

※1「基幹管路」: 浄水場から配水池までの送水管や大きい配水管(口径400mm以上)など

※2「耐震適合率」: 耐震管と、地盤の固さを考慮すれば耐震性能があると評価できる水道管が占める割合

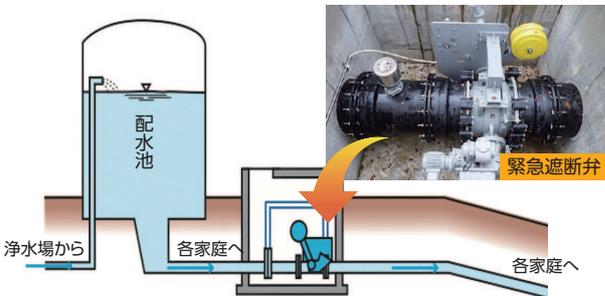
基幹管路^{※1}の耐震適合率^{※2}



地震で水道管が破損しても飲料水を確保できるように取り組んでいます

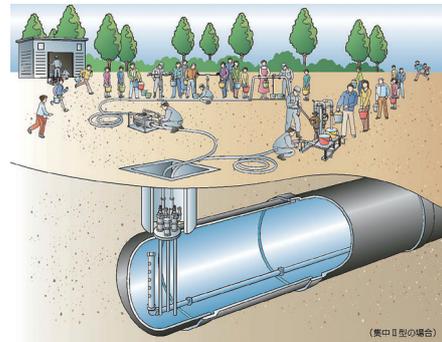
① 配水池 (6カ所)

地震の際に配水池などから水の流出をふせぐため、異常を検知すると、自動的に配水を停止できる機能を持ったバルブ(緊急遮断弁)を6カ所の配水池に設置しています。



② 飲料水兼用耐震性貯水槽 (2カ所)

災害対策の一環として、市が平和市民公園といこいの道の2カ所に設置しています。通常時は水道管の一部として使用しており、地震が発生すると緊急遮断弁が作動し、内部に水を貯えます。



③ 浄水場内の使用可能な水量

浄水場内の出来上がった水道水を貯めておく浄水池の使用可能な水量

全施設貯水量(①+②+③):47,400m³ = 市民約1週間分の飲料水を確保しています

大分市行政人口:476,386人(令和4年3月末時点)、1~3日目:1人1日3リットル、4~7日目:1人1日20リットルとして計算(厚生労働省「水道の耐震化計画等策定指針」より)※通常時の平均給水量は1人1日約250リットル

☎ 水道整備課 ☎538-2405

災害に備えて水を備蓄しましょう

万一、災害で断水になった際は、上下水道局では全力で復旧に努めますが、被災状況によっては時間がかかる場合があります。いざというとき困らないように各家庭で水の備蓄をしておきましょう。

備蓄の目安

飲料水の備蓄

3リットル

×

家族の人数

×

7日分

生活用水の備蓄

風呂の水は抜かず、トイレなどの生活用水として準備しておくことも効果的です。

水道水は塩素消毒をしてあるから3日程度保存できるよ!

でも、沸騰させたり、浄水器を通すと塩素がなくなって保存期間が短くなるから注意してね。

水道水を飲料水として保存する場合は

- ① 清潔なふたつき容器を用意
- ② 浄水器を通さず、直接水道水を①の容器に満水にする
- ③ 冷暗所に保管する

☎ 上下水道局 総務課 ☎538-2403